10　　猟師、仏を射る　　　　　　　　　　　　　文法　形容詞

読解　結末が表す内容を正しくつかむ

ある猟師が知り合いのに、最近よく現れるを一緒に見ようと誘われた。その夜、普賢菩薩が光とともに現れ、聖は感激して熱心に拝んだ。

猟師思ふやう、「この事試みてん。これ罪べき事にあらず」と思ひて、を弓につがひて、聖の拝みりたる上よりさし越して、弓を強く引きて、ひやうと射たりければ、御胸の程に当たるやうにて、火をうちつごとくにて光も㋐せぬ。谷へとどろめきて逃げ行く音す。聖、「①これはいかにしへるぞ」と言ひて、泣き惑ふ事ⓐ限りなし。男申しけるは、「聖の目にこそ見え給はめ、我が罪深き者の目に見え給へば、試み奉らんと思ひて射つるなり。まことの仏ならば、　㋑よも矢は立ち給はじ。さればⓑあやしき物なり」と言ひけり。

夜明けて、血をめて行きて見ければ、一町ばかり行きて、②谷の底に大きなる、胸より尖矢を射通されて死して伏せりけり。

語注

聖＝徳の高い僧。また、山中にもって修行をする僧。

尖矢＝先端を鋭くとがらせた矢。

一町＝約一〇九メートル。

【原文】

猟師思ふやう、「この事試みてん。これ罪得べき事にあらず」と思ひて、尖矢を弓につがひて、聖の拝み入りたる上よりさし越して、弓を強く引きて、ひやうと射たりければ、御胸の程に当たるやうにて、火をうち消つごとくにて光も失せぬ。谷へとどろめきて逃げ行く音す。聖、「これはいかにし給へるぞ」と言ひて、泣き惑ふ事限りなし。男申しけるは、「聖の目にこそ見え給はめ、我が罪深き者の目に見え給へば、試み奉らんと思ひて射つるなり。まことの仏ならば、よも矢は立ち給はじ。さればあやしき物なり」と言ひけり。

夜明けて、血を尋めて行きて見ければ、一町ばかり行きて、谷の底に大きなる狸、胸より尖矢を射通されて死して伏せりけり。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

［　　　　］は考えがあって［　　　］に対して［　　　］を［　　　　］、命中させた。聖は［　　　　　　］うが、［　　　］の跡をたどっていくと［　　　］が死んでいた。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ（㋐は終止形でよい）。〈4点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕

㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ・ⓑの活用の種類と活用形を答えよ。〈3点×2〉

ⓐ 〔　　　　　　　　〕活用　〔　　　　　　〕形

ⓑ 〔　　　　　　　　〕活用　〔　　　　　　〕形

問四　［チェック問題］形容詞

次の活用表を完成させよ。〈1点×3〉

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| いみじ | | 悲し | | 白し | | 基本形 |
|  | |  | |  | | 語幹 |
|  |  |  |  |  |  | 未然形 |
|  |  |  |  |  |  | 連用形 |
|  |  |  |  |  |  | 終止形 |
|  |  |  |  |  |  | 連体形 |
|  |  |  |  |  |  | 已然形 |
|  |  |  |  |  |  | 命令形 |
|  | |  | |  | | 活用の種類 |

補助活用は、主に助動詞に接続するとき用いる。

問五　傍線部①の解釈として最も適当なものを選べ。〈7点〉

ア　どうして仏は私を見捨ててしまわれるのか。

イ　仏が逃げなさったのはどうしてなのか。

ウ　仏を射るとはあなたはどうなさったのか。

エ　あなたはどのような矢を放ちなさったのか。

〔　　　〕

問六　傍線部②のことから、猟師と聖はどういうことに気づいたのか。十五字以内で答えよ。〈10点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問七　本文の内容に合致するものを二つ選べ。〈8点×2〉

ア　思慮深い猟師は冷静な判断により仏の正体を見破った。

イ　愚かな聖は狸に化かされて猟師の信頼を失ってしまった。

ウ　仏なのに愚かであったために、狸の命を奪ってしまった。

エ　思慮深く度胸のある狸は知恵比べで猟師にかなわなかった。

オ　愚かな猟師は仏に反抗するという大それた気持ちを持った。

カ　立派なはずの聖だが、考えが足りなくて狸にだまされた。

〔　　　〕〔　　　〕

【解答】

問一　猟師／仏／弓／引き／泣き惑／血／狸

問二　㋐＝消え去る　㋑＝まさか〈4点×2〉

問三　ⓐ＝ク活用・終止形　ⓑ＝シク活用・連体形〈3点×2〉

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| いみじ | | 悲し | | 白し | | 基本形 |
| いみ | | 悲 | | 白 | | 語幹 |
| じから | （じく） | しから | （しく） | から | （く） | 未然形 |
| じかり | じく | しかり | しく | かり | く | 連用形 |
| ○ | じ | ○ | し | ○ | し | 終止形 |
| じかる | じき | しかる | しき | かる | き | 連体形 |
| ○ | じけれ | ○ | しけれ | ○ | けれ | 已然形 |
| じかれ | ○ | しかれ | ○ | かれ | ○ | 命令形 |
| シク活用 | | シク活用 | | ク活用 | | 活用の種類 |

問四　〈1点×3〉

問五　ウ〈7点〉

問六　仏の正体が大狸であったこと。（14字）〈10点〉

問七　ア・カ〈8点×2〉

【現代語訳】

猟師が思うには、「この事を試してしまおう。これは罪を得るはずの事ではない」と思って、とがり矢を弓につがえて、聖が拝み伏している上から頭越しに、弓を強く引いて、ひゅっと射たところ、（矢は仏の）御胸のあたりに当たるようで、火をうち消すように光も消え去った。谷（の方）へ鳴り響いて逃げていく音がする。聖は、「これは（あなたは）どうなさったのか」と言って、泣いて取り乱すことはこの上もない。男が申し上げたことには、「（仏が）聖の目に（姿を）お見せになるのはよいが、自分のような罪深い者の目に（姿を）お見せになるので、お試し申し上げようと思って射たのだ。まことの仏であるなら、まさか矢は（仏には）立ちなさるまい。それゆえ（矢が当たった仏の正体は）不審なものだ」と言った。

夜が明けて、血の跡を尋ねて行って見たところ、一町ほど行って、谷の底に大きな狸が、胸からとがり矢を射通されて死んで横になっていた。

【補充問題】

問１　「この事試みてん」（１行目）とあるが、「この事」とは何か。簡潔に答えよ。

問２　「あやしき物なり」（６行目）について、

(1)猟師がこのような疑いを持った理由を、二十五字以内で答えよ。

(2)このように断定するに至った理由を、二十五字以内で答えよ。

【補充問題解答】

問１　仏に矢が立つかどうかということ。

問２　(1)仏が、自分のような罪深い者にも姿を見せたから。（23字）

(2)本物の仏ならば当たるはずのない矢が当たったから。（24字）